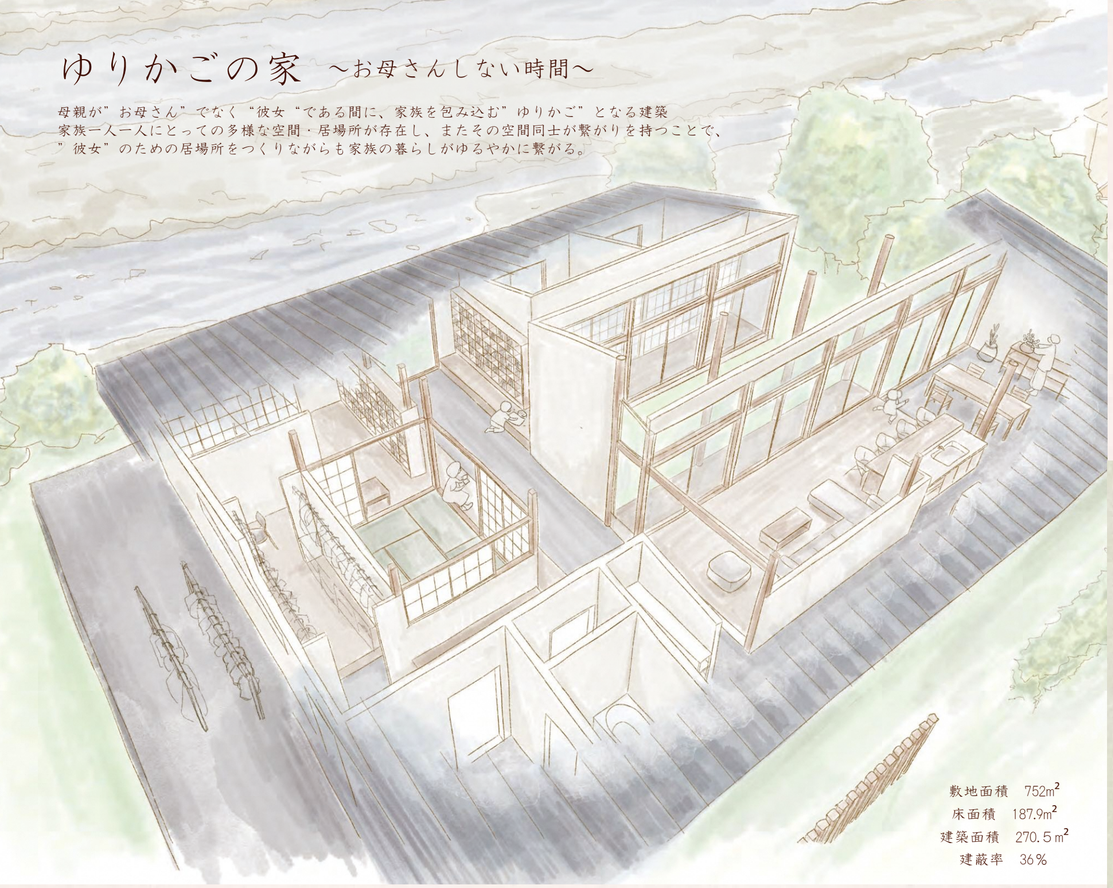
ゆりかごの家 ～お母さんしない時間～

母親が”お母さん”でなく“彼女“である間に、家族を包み込む”ゆりかご”となる建築
家族一人一人にとっての多様な空間・居場所が存在し、またその空間同士が繋がりを持つことで、
”彼女”のための居場所をつくりながらも家族の暮らしがゆるやかに繋がる。



敷地面積　752m²
床面積　187.9m²
建築面積　270.5 m²
建蔽率　36％

0. PROLOGUE ― 北山丸太

京都の風土で育ち、滑らかで繊細な木肌の美しさと曲げに対する強さを兼ね合わせた北山丸太は、京都の地に建つ家にとって最高の建材である。提案する建築では、この北山丸太を意匠構造体として多用し、その美しさと力強さを十分に生かした建築を目指した。

1. SITE ― 自然に囲まれた敷地

京都市下鴨は、東西から流れる二つの川が一つとなる地であり、下鴨神社と糺の森を中心に、山々に囲まれた自然豊かな地域だ。糺の森で毎年開催される古本市には多くの人が集まり、文化的な由縁がある。高野川と糺の森に挟まれた一角を今回の敷地として設定した。

2. BACKGROUND ― 母親の透明化

“お母さん”とは、家族にとって安心できる存在、家庭をあたたかく包み込む“ゆりかご”である。お母さんの周りには家族が集まり、そこは自ずと家族にとっての居場所となる。では、“お母さん”という役割を担い、家族のあたたかな居場所となる母親自身にとっての居場所とは、一体どこにあるのか？それは使いやすい家事動線でも、多機能キッチンでもない。母親という役割の枠組から離れた、母親である以前の“彼女“のための空間が必要である。

3.FAMILY STRUCTURE ― 家族構成

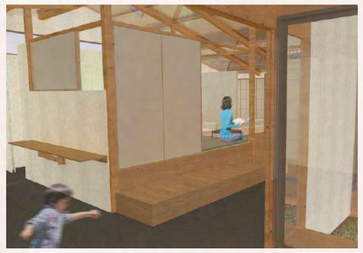
父（30代）：在宅ワーク、趣味はガーデニングと古本集め
母（30代）：会社勤め、趣味は古本集めと読書
長男（小2）：絵を描くことが好き
長女（年長）：自然が好き、ガーデニングをよく手伝う

4. 川を望みながらの趣味時間のテラス

夫婦の主寝室の外には、古都京都に流れる高野川を感じるテラス。
さらさらという瀬音とともに川から冷たい風がのぼってくれば、慌ただしい毎日も忘れて自分と本だけの世界へ。
好きなだけ“お母さん“を離れて趣味の読書に浸る静かな趣味空間。

5. 家の中心でお母さんと彼女を繋ぐ和室

通り土間に面しながらも小上がりになった和室。障子を閉じて趣味に浸る“彼女“の空間にも、障子を開けて“お母さん“の存在を感じられる家族の空間にも。
小上がりに腰かけるお母さんが見えるから、こどもたちも安心して遊んでいられる。

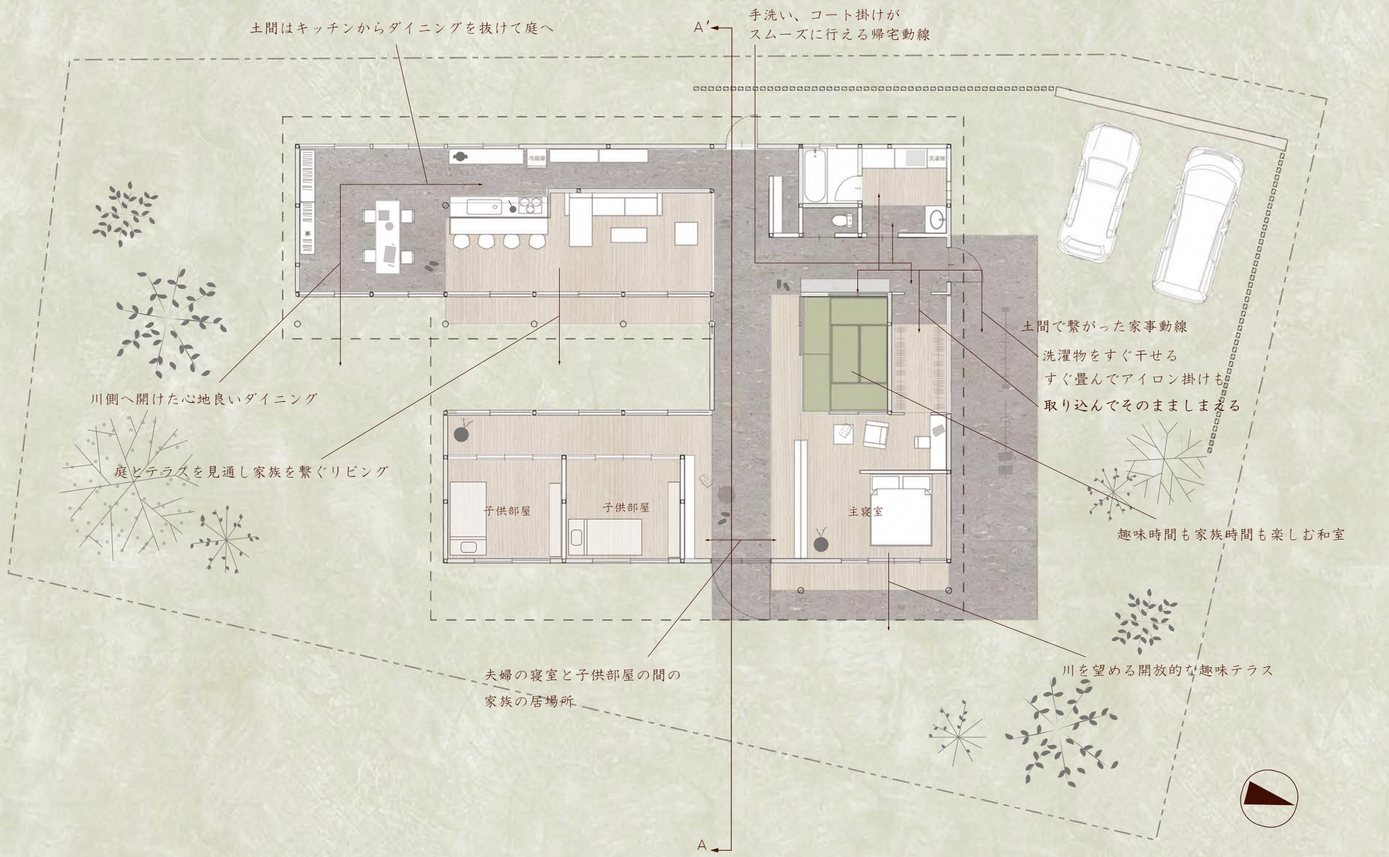


6. 見通しの良い家族の時間を繋ぐリビング

庭で趣味のガーデニングを楽しむ父親とそれを手伝う長女、テラスの先に広がる高野川や庭の木々が織りなす風景を描く長男、リビングでくつろぐ母親。“彼女”の時間をリビングで過ごす母親の姿は、家族にとっての“お母さん”の姿にもなる。
お互いの暮らしを見通し共有できるリビング・テラス・庭によって、各々の時間は一つの家族の時間として流れる。

7. 家全体を繋ぐ通り土間

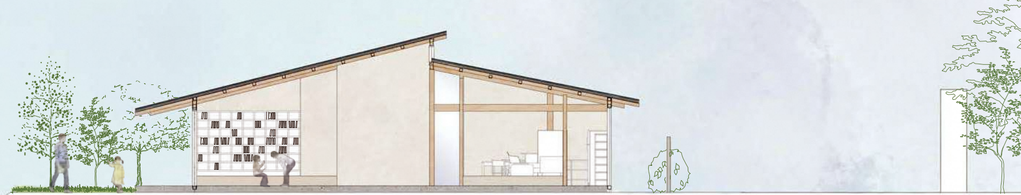
玄関に入るとすぐに広がる土間は、夫婦の寝室と子ども達の個室から家事動線やキッチンダイニングを繋ぎ、庭へと抜ける。夫婦の寝室と子ども達の個室の間の土間では川に向けて大きな窓が開き、家族が集まる居場所となる。家の中でそれぞれの時間を過ごす家族一人一人の暮らしは、土間を通してゆるやかに繋がっている。



平面図（S=1：150）

西面立面図（S=1：150）

東面立面図（S=1:150）



A−A’断面図（S=1:150）